



No.139

富士山憲章 NewsLetter

2022富士登山

－富士山安全登山啓発のまとめ－
－冬の富士登山の危険性－

美しい富士山を後世に引き継ぐために・・・

－富士さんへ謹賀新年（富士山あて年賀状）－

本編目次

富士山憲章News..... 1

2022富士登山

安全登山啓発のまとめ..... 3

冬の富士登山の危険性..... 4

富士山レンジャー活動

環境学習支援プログラム... 5

富士山世界遺産センター

だより 6

おしらせ・富士山憲章..... 8

（写真提供 山梨県富士山レンジャー）

富士山憲章山梨県推進会議

(富士山ボランティアセンター)

富士山ボランティアセンターを運営している富士山憲章山梨県推進会議は、山梨県と富士北麓地域の7市町村（富士吉田市、西桂町、忍野村、山中湖村、富士河口湖町、鳴沢村、身延町）、2つの恩賜林組合（富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合、鳴沢・富士河口湖恩賜県有財産保護組合）で構成されており、平成10年に山梨・静岡両県で制定した「富士山憲章」の普及啓発や、富士山の環境保全と適正利用を推進する活動を行っています。

清掃活動報告

第1回富士山エコトレッキング

富士山の自然や歴史、文化の解説を聞きながらトレッキングを行うとともに、「富士山にゴミを持ち込まない・捨てない・気づいたゴミは拾う」の趣旨のもと清掃活動を行う、富士山エコトレッキングを7月30日（土）に開催しました。

世界遺産富士山の構成資産である船津胎内樹型から吉田胎内樹型、中ノ茶屋までの、溶岩が創造した森の古道を、富士山世界遺産センター調査研究スタッフの解説を聞きながら散策しました。

強い日差しが照りつける夏日ではありませんでしたが、参加者の方には検温・消毒、ガイドラインに沿ったマスク着用にもご協力いただき活動しました。

溶岩樹型が40カ所以上ある「船津胎内樹型」の広いエリアにたずむ河口湖フィールドセンターでは、無戸室（むつむろ）浅間神社拝殿奥の船津胎内樹型入口から一歩足を踏み入れると、冷蔵庫のようなひんやりとした空気に包まれました。その後も木々が日光を遮るように広がる森を調査研究スタッフの解説を聞きながら散策し、富士山信仰の歴史を感じる貴重な石碑なども見学することができました。



解説に聞き入る参加者のようす

中ノ茶屋でのお昼休憩後、清掃場所に移動し、2グループに分かれ国道沿いの清掃を行いました。夏の観光シーズンの影響もあるのか、参加者の方も驚くほどのゴミが見られました。

今回の清掃で回収したゴミの量は、可燃ゴミ11・1 kg 不燃ゴミ33・2 kg 主要道路にもかかわらず、錆びたワイ

ヤーや廃木材などもあり、今後関係団体などと連携し、富士山の環境保全のための継続した活動を進めます。



回収したゴミと計量のようす



富士山美化啓発キャンペーン

富士山を訪れる観光客や登山客に環境保全への理解と協力を求める啓発活動と清掃活動を、8月10日（水）から12日（金）の3日間行いました。3年ぶり5日間の開催予定でしたが、後半の2日間は台風の影響により中止となりました。スバルラインマイカー規制中の富士山五合目行きシャトルバス利用者へ、応募参加のみなさんからゴミ袋を配布し、ゴミの持ち帰りを呼びかけました。また、シャトルバス発着所の富士山パーキングの清掃活動も行いました。



上部…啓発活動
下部…清掃活動



シャトルバス利用者がコロナ前と比べ減少していることもあり、1日の平均は、ゴミ袋配布250枚・回収ゴミ（可燃・不燃あわせ）4 kgでした。

参加者の方から、このような活動はぜひ続けてほしいとの要望がありました。今後も、美しい富士山を後世に引き継いでいけるよう環境保全の呼びかけと清掃活動を企画します。

富士山環境保全募金寄付

受納式

富士山環境保全募金寄付受納式

9月15日（木）、星美学園小学校（東京都北区）3年生が林間学校で富士山を訪れ、富士山環境保全募金への寄付金の贈呈式が、富士山三合目の「富士の聖母像」の前で行われました。



児童の代表者から手作りの封筒で寄付いただきました。

星美学園小学校は、平成12年に富士山ボランティアセンターが設立されて以来毎年、児童のみなさんが募金を呼びかけ、3年生が学校を代表して寄付してくださる回と20回。

コロナ禍の影響で一度途絶えてしまいましたが、3年ぶりにご寄付のお申込みをいただき、児童のみなさんとお会いすることができました。

21回目の思いが詰まった重みを、手作りの袋から感ずることができました。

このご寄付は、富士山の環境保全のために大切に活用させていただきます。誠にありがとうございました。



寄付のお礼に感謝状を贈呈しました。

第20回 富士山へ謹賀新年 ～富士山あて年賀状～

富士山憲章山梨県推進会議(富士山ボランティアセンター)では、富士山の環境保全に向けた意識や関心を高め、美しい富士山を将来にわたり守り引き継ぐことを決意した「富士山憲章」の普及定着を図るため、富士山にあてた年賀状を募集してきました。第20回の今回は、富士山が世界遺産登録10周年を迎える年の年賀状となります。

そこで、入選作品200点の中から選ばれる入賞20点の賞の中に、特別賞を企画しました。

富士山への愛に溢れた作品をお待ちしております。

第19回の最優秀作品3点(左写真)を含む入賞・入選作品展も山梨県内外を巡回中です。是非ご覧ください。



小学生の部



中・高生の部



一般の部

募集要項などの詳細につきましては、富士山ボランティアセンターホームページをご覧ください。
(<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/>)



富士山レンジャー写真展 2022

Mount Fuji Photo Exhibition

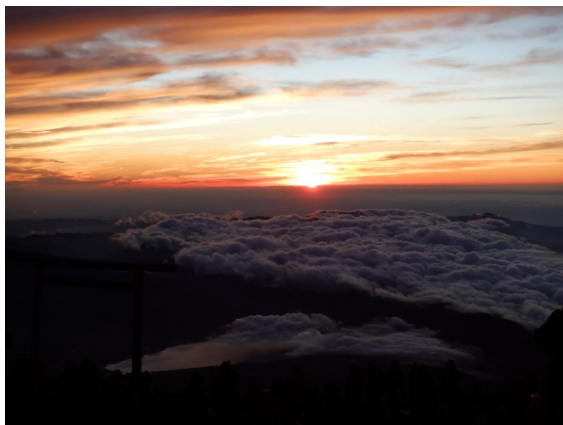
Photo by Mt.Fuji Ranger

巡回展の日程など詳細はこちらのHPから→

<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/topics/fujisanranger-photoexhibition.html>



～2022年 富士山安全登山啓発のまとめ～



8月11日(山の日) 山頂の御来光

富士山レンジャーは、今年も富士山の開山期間である7月1日～9月10日の72日間、スバルライン五合目からの登下山道を巡回し、安全登山指導を行いました。

環境省の発表によると、今年の山梨県側(吉田ルート)の登山者数は9万4000人で、昨年度に比べると73%の増加となりました。コロナ禍前と比べると、約40%程度少ない登山者数となりました。また、富士吉田市の調査によると、今年度の弾丸登山者数は全体登山者数の2.6%でした。弾丸登山者が多かった年は、全体登山者の内、約8%です。低い水準に抑えることができています。要因としては、富士スバルラインの営業時間の短縮や弾丸登山のリスクを継続的に周知していることなどが考えられます。



山小屋の前で仮眠をとっている弾丸登山者

例年、お盆の時期に問題となっている弾丸登山者による登山道脇でのテント設営や山小屋への迷惑行為などの対策として、今年度も8月7日から14日の7日間、マウントフジトレイルクラブ様と合同で夜間巡回を行いました。

今年の特徴は、新型コロナウイルスの影響で外国人登山者が少なかったこと、また、お盆期間に天候の不安定な日が続き登山者が少なかったことが挙げられます。それでもやはり、登山道脇で寝ていて、低体温症になりかけている人や立ち入り禁止エリアへ立ち入りしている人が目立ちました。

また、軽装備での登山者も多く見受けられました。例えば、写真のような半袖、短パン、裸足のような人も見受けられました。軽装備での富士登山は、高山病や低体温症になるリスクを上昇させます。

富士山は天候が変化しやすく、晴れていたのが30分後には崩れているというようなことがよくあります。雨具、登山靴、防寒着等をきちんと装備していれば、悪天候時にも対応が可能です。また、五合目と山頂の気温差は昼間で9℃、夜間では13℃以上にもなります。そういった点から、私達富士山レンジャーは、軽装備の登山者を見かけるとお節介かもしれませんが、声をお掛けしています。

富士山レンジャーは、登山者の皆さんがルールを守り、無事に登山されることを願っています。見かけた際は、皆さんからお気軽にお声掛けください。



迎久須志之神社跡の祠で寝ている弾丸登山者

気温が氷点下に近い中、雨風にさらされたらどうなるのか。最悪の場合、命を落とすことにもなりかねないことを巡回を行いながら説明させて頂きました。



上半身裸で登山している登山者



半袖、短パン、裸足で登る登山者に指導する富士山レンジャー

～冬の富士登山の危険性～

2022年夏の富士山には、山梨県側（吉田ルート）だけでも9.4万人の登山者が訪れ、コロナ禍前まで戻らずとも、賑わいをみせました。

そして、大きな自然災害・事故等に見舞われることなく、9月10日、無事、閉山しました。

これから富士山は紅葉で美しい秋を過ぎ、頭にすっぽり雪を被った冬を迎えます。

冬の富士山は、夏の姿とは全く異なり、日本一の標高と独立峰であるが故に、想像を超える寒さと強風が登山者を襲います。

下の表が示す通り、残念ながら、毎冬、死亡事故や遭難事故が、山梨県内の山岳で発生しており、富士山も例外ではありません。

冬の富士山の山頂部は平均気温がマイナス15度以下、最低気温はマイナス30度以下にもなり、風速は平均で15m以上、最大風速は40mを超えることもあります。

	発生件数	遭難者数	死亡	負傷	無事救助	行方不明
令和3年度	26件	30人	7人	9人	14人	0人
令和2年度	25件	25人	1人	13人	11人	0人

山梨県警察ホームページ「冬山期間（12月～3月）における山岳遭難発生状況」

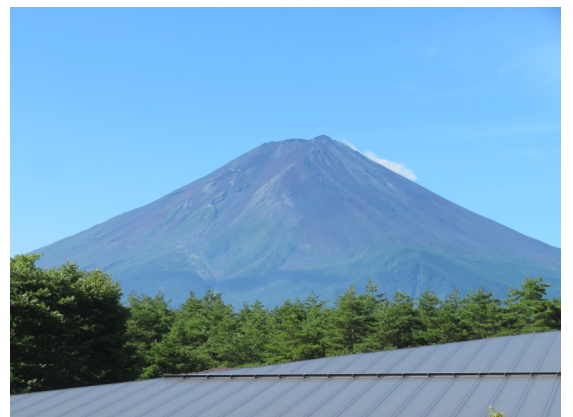
一般的に風速1mで「体感温度」が1度下がると言われていますが、冬の富士山、特に森林限界より上の場所では、風と雪を遮るものがなく、直撃を受けることとなり、低体温症や転落・滑落のリスクを高めます。また、強烈な風が、アイスバーンなどの危険な状況を作ることにも想定されます。富士山では北西風が強く吹くと山の東側で風が渦巻き、積もった雪が吹きあがっているのが麓からでも確認できます。そのような状況では登山道や踏み跡（トレース）もまたたくまに消えてしまい、遭難に繋がる危険を常にはらんでいます。

- （1）万全な準備をしない登山者の夏山期間以外の登山禁止
- （2）「登山計画書」を必ず作成、提出
- （3）登山者のマナーとして、「携帯トイレ」の持参と回収

2013年、遭難事故防止及び自然環境保全を目的として制定された「富士登山における安全確保のためのガイドライン」にて、「充分な技術・経験・知識と、しっかりとした装備・計画を持った者の登山は妨げるものではないが、万全な準備をしない登山者の登山は禁止する。」などが明記されています。



夏の富士山と様子が一変する冬の姿



富士山世界遺産センターから望む夏の富士山

冬季閉山中の富士登山にあたっては、厳しい条件の中、登山するリスクをしっかりと認識し、万全な計画と装備で望むようお願いいたします。

富士山レンジャーは、毎冬、山梨県警と連携し、吉田口登山道の「馬返」で、厳冬の富士登山者に対して、装備品の確認、登山届提出の有無などをヒアリングし、安全登山啓発活動を実施しています。特に登山届を提出していない登山者を多くみかけます。冬の富士山に果敢に挑むのは万全な準備があつてこそ。今年度も安全登山を呼び掛けていきます。

【富士登山オフィシャルサイト】
(<http://www.fujisan-climb.jp/risk/guidelines.html>)

【登山アプリ「コンパス」】
(<https://www.mt-compass.com/howto.php>)



吉田口登山道「馬返」での冬山登山啓発の様子



富士山環境学習 支援プログラム

富士山環境学習支援プログラムとは、富士山ボランティアセンターが実施している教育支援事業です。多くの人が富士山とふれ合い、知識を深め、富士山の環境保全の意識を育むことを目的とするものです。富士山レンジャーが、巡回中に撮影した写真等を用いてわかりやすく講義します。

プログラムは大きく分けて4つあり、組み合わせで実施することができ、最大実施時間の目安は2〜3時間です。

1. 環境学習会

富士山世界遺産センターにて、富士山の自然や環境保全を楽しく学べる学習会を実施します。



環境学習会@富士山世界遺産センター

児童・生徒・学生の校外学習や教育旅行・社会科見学などに、また社会人の視察旅行や研修、各種勉強会に最適です。学年や予備学習、受講者の知識や企画に応じた幅広い、「楽しく」「ためになる」プログラムが特徴です。

所要時間は30分から、実施人数は最大25名までです。いずれにつきましても、ご相談に応じます。

2. 出張講座



出張講座@忍野村の宿泊施設にて
東京都の小学校の5年生

山梨県内であれば、富士山レンジャーがみなさんの学校や職場等へ出張し、「環境学習会」を実施することができます。複数回続けての計画的な学習にも対応可能です。また、体育館などでの講義も可能です。(最大50名程度)

【出張講座の所要時間・実施人数】

学校 11時限(30〜60分)・1クラス人数から。

職場等 60〜90分・1グループから。

3. 体験型学習

ミニエコツアー

ミニエコツアーでは、富士山世界遺産センターの自然観察園での散策を通して、富士山の自然について楽しく学ぶことができます。



ミニエコツアー@世界遺産センター自然観察園

ゴミ拾い体験

富士山世界遺産センター周辺等でのゴミ拾いの実体験を通して、富士山周辺地域の環境保全について理解を深めることができます。



ゴミ拾い体験@世界遺産センター周辺

実施期間はいつでも4月から11月、所要時間は30分から、実施人数は最大15名です。15名以上はご相談ください。

4. その他教育支援活動

○教員・指導者向けの支援活動

＊教員・指導者を対象とした研修会・勉強会の開催

＊富士山教育に関するカリキュラム相談

＊写真や各種資料等授業に使用する教材の貸し出し

○団体リーダー・企業担当者向け

支援活動

＊研修や環境学習に使用する写真やパネル、各種資料の貸し出し・提供

＊団体リーダー・企業担当者向けの研修・講習の実施及び研修計画、CSR推進に関する相談

○富士山環境学習よろず相談

＊富士山と環境保全に関する自主学習、各種研究に対する質問・相談受付・資料提供

【申込・お問い合わせ】

富士山ボランティアセンターまで

(<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/>)

富士山世界遺産センターだより20号

■山梨県立富士山世界遺産センター

南館展示紹介 3

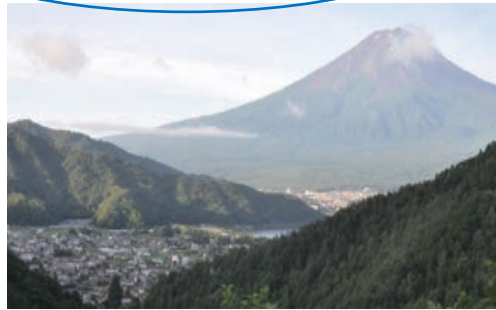
前号に続いて、新たに導入したVRとリニールした内容を少し詳しく紹介します。

● 世界遺産富士山VR 「富士信仰の旅」

富士山には、4つの登拝路（登山道）があります。今にいたるまで、最も多くの登山者を集めているのが、吉田町（富士吉田市上吉田）を起点とする吉田口登山道（北口）です。
VRゴーグルを装着して、吉田口から富士山頂をめざすことができます。



御坂峠上空から見る富士山は、葛飾北斎が描いた富士山です。これぞ「芸術の源泉」！！



かなどりい
吉田町の入口（金鳥居）、吉田口登

おとりい うまがえし
山道の起点（大鳥居）、馬返……。

登山道の要所には、鳥居が立っています。

● 「藤切祭」甲府市右左口町・円楽寺」

甲府市右左口町七覚にある円楽寺は、修験道の開祖とされる役行者が創建したと伝えられる古寺です。御室（吉田口二合目）にあった行者堂を管理し、富士山とも縁が深い寺院です。かつて同寺では旧暦4月15日に藤切の祭が行われ、「七覚の真截」の名で知られていました。高さ8.5メートルの真木（柱松）を立て、藤蔓で作った28本の輪を結び、これに一人の修験者がよじ登って、最上部の輪を切り落とししました。その年の富士山での修行開始を告げる儀式で、富士山における修行を模したものであったと考えられます。



大善寺



現在、甲州市勝沼町勝沼の大善寺には、これに似た祭が伝承されています。



● 「仏の世界から神の世界へ」仏教色の排除

明治政府の神仏分離政策により、山頂を仏の住む世界とする考え方は否定され、富士山の信仰世界は一変しました。山中の各所にあった仏像や仏具は一掃され、「木花開耶姫命」などの神々が祀られるようになりました。
登山の性格にも変化が訪れ、信仰よりもレジャー、スポーツを目的とする登山者が増えています。鉄道や道路の整備も進み、より多くの人が富士山頂をめざすようになりました。



展示の上部には、富士山頂の仏像群と、賽の河原で石積みをする参詣者の姿が描かれています。下部は、現在の吉田口頂上にある久須志神社。以前は、薬師堂でした。



富士山世界遺産センターだより20号

企画展 富士の神事芸能と病

富士山世界遺産センターでは今年度第一回の企画展を開催しました(会期11月28日(木)～9月26日(月))。湯立や六斎など、富士山周辺に伝わる神事芸能や念仏芸能を病気との関連でとりあげました。ここでは、獅子神楽(獅子舞)の展示について紹介します。

＜流行病と獅子神楽＞

静岡県御殿場市の沼田・大坂や神奈川県箱根町の宮城野・仙石原には「湯立神楽」(湯立獅子舞)が伝わります。この芸能では、釜に沸かしたお湯の周りで、獅子頭をかぶった舞手が神楽を舞い、笹の葉を湯に浸して周囲に振りかけます。

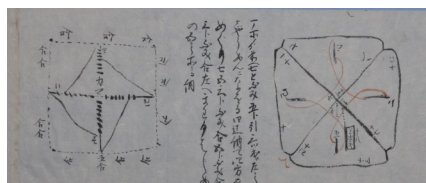
湯立神楽は流行病と密接な関係があります。たとえば、宮城野では、中断されていた獅子神楽が、スペイン風邪の流行をきっかけに、大正9年(1920)に復活しました。獅子神楽の奉納には、疫病退散の願いが込められていました。

＜下吉田から伝わった獅子神楽＞

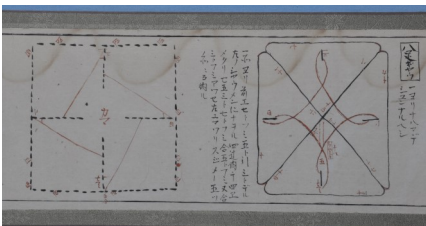
さて、こうした静岡・神奈川県の獅子神楽は、下吉田(山梨県富士吉田市)から伝播したと考えられ

ています。

その証拠となるのが「辻引」とよばれる、神楽の舞い方を図や文章で説明した巻物です(写真1、2)。



▲写真1 御神楽辻引之事(下吉田)



▲写真2 御神楽辻引之事(須山)

沼田や仙石原に伝わる辻引の末尾には「萱沼儀(義)兵衛」という人名が記されています。萱沼儀兵衛の「萱沼」とは下吉田に住んでいた萱沼氏のことです。

萱沼氏には、江戸時代を通じて寺社を建てる大工として活躍した家筋があります。彼らの活動域は富士北麓のみならず、静岡県東部の御厨地方まで及んでいました。大工の活動を通して御厨地方にかかわりを持った萱沼氏が、この地方に獅子神楽を伝授したと考えられます。

今回の展示では、下吉田の萱沼氏

の一家系に伝わる辻引(写真1)と裾野市須山に伝わる辻引(写真2)を紹介しました。写真2をみると、写真1によく似た図が描かれていることに気づくでしょう。須山の獅子神楽も、下吉田の流れを汲んでいるようです。

＜獅子頭の展示＞

下吉田に伝わった獅子神楽に中組神楽がありますが、残念なことに現在は中断しています。しかし今回の展示では、神楽を伝承する天神社から獅子頭を借用いたしました(写真3)。この獅子頭は夏休みに来場した子どもたちにも人気でした。



▲写真3 下吉田の獅子頭

また、須山でかつて使われていた古い獅子頭も並べて展示しました(写真4)。鼻がふつくとした愛嬌がある顔立ちを気に入られたのか、多くの方々に好評でした。



▲写真4 須山の獅子頭

予告 令和4年度 第2回企画展「吉田ー富士山北面の登拝拠点ー」

- ◇会 期 2022年12月24日(土)～2023年2月27日(月)
- ◇会 場 富士山世界遺産センター南館
富士山ステーション
- ◇内 容 吉田(富士吉田市上吉田)は、吉田口登山道の玄関口として栄えました。富士山へ向かって南北方向に延びる今日の町割の原形が成立したのは元亀3年(1572)で、ちょうど450年が経過したことになります。ひとつの「節目」として、吉田の歴史を振り返ります。

第20回 富士さんへ謹賀新年～富士山あて年賀状～

美しい富士山を守り、未来へ引き継いで行くために。

2023年6月世界遺産登録10周年を迎える
富士山への年賀状を全国から募集します。

募集期間：令和4年11月15日（火）～令和5年1月16日（月）消印有効

応募規定など募集の詳細は、

第20回富士さんへ謹賀新年

検索

応募先
問い合わせ

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1

（山梨県立富士山世界遺産センター北館内）

富士山ボランティアセンター 「富士さんへ謹賀新年」 係

TEL:0555-20-9229

URL:<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/>



富士山憲章（行動規範）

- 一 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 一 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 一 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 一 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 一 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日 山梨県・静岡県

富士山憲章は、富士山の自然環境等の保全の理念や環境保全のための行動規範を示すことにより、富士山の環境保全への協力を訴え、国民的な規模で保全運動の展開を図っていくことを目的としています。

■編集・発行 富士山ボランティアセンター
（富士山憲章山梨県推進会議）

山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1

（富士山世界遺産センター北館内）

TEL: 0555-20-9229 FAX: 0555-72-4114

E-MAIL: fujisan@eps4.comlink.ne.jp

本誌のバックナンバーは下記よりダウンロードできます。

<https://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/newsletter/index.html>

富士山環境保全関連イベントのメールマガジンを希望する方は、「富士の国やまなし観光ネット 富士の国やまなしメールマガジン」の会員登録画面より登録してください。

<https://www.yamanashi-kankou.jp/mailmagazine/index.html>